

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072800606	
法人名	社会福祉法人協立福祉会	
事業所名	高齢者グループホームあずみの里	
所在地	長野県安曇野市豊科高家5285-11	
自己評価作成日	平成23年2月3日	評価結果市町村受理日 平成23年7月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072800606&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072800606&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部	
所在地	長野県松本市巾上13-6	
訪問調査日	平成23年3月18日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあずみの里では個別ケアに力を入れて取り組んでいます。利用者個々のレベルに合わせた楽しみ、役割の提供を行っています。グループホームの中庭、外周には利用者が世話をしている植物が多くあり、季節にあわせた花が咲きます。また畑は利用者が食べたい野菜を植え、利用者主体で水くねなどを行い収穫した野菜を食事時に皆で食べています。食事では、ご飯の炊ける匂いや魚が焼ける音など五感を刺激できるような配慮を行っています。利用者一人ひとりが主役になれるよう利用者が喜びを感じながら、日々過ごせるように職員は心がけて接しています。職員は常に「生活のパートナー」という意識を持ち、利用者の出来ない所に手を差し出すように心がけてケアを行っています。私達職員は、利用者、家族の笑顔が一番に考え「安心、安全、信頼」を追求し、日々ケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームあずみの里は高齢者総合福祉施設を母体に持ち、同施設敷地内に設置されている。母体理念「安心」「信頼」「参加」を活用しつつホームとして個別の理念「一人ひとりを尊重し快適な生活が送れるように支援をおこなう...等」を作成し、職員全員で常に運営理念の実現に努められている。また母体で行われる研修会や勉強会に参加して職員の質の向上に努めると共に、系列のグループホーム間の交流による情報交換が行われ、より質の高いケアサービスの提供に向け努力をされている。なおホームは協立福祉会に属し、関連医療機関の医師や訪問看護による健康管理が行われており、入居者やご家族の安心と安定に繋がっている。今後更に地域に開かれたホームになるよう、市担当者や協働して認知症予防教室等の開催や地域住民との交流を積極的に取り組まれて行かれる旨を伺った。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員間で話し合いを行い、皆で確認できる理念を作った。理念を実践できるように部会等で確認をしている。</p>	<p>法人理念を活用しつつ、職員全員で話し合いホーム独自の理念が作成されている。ホーム玄関に掲示して職員が出勤時等に理念を確認して共有化が図られている。</p>	<p>今後更に入居者が住み慣れた地域で安心した暮らしが得られるよう、地域生活の継続を支えるための理念の実現に向けて職員全員で話し合わせ、ケアサービスの実践に活かされるよう期待する。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地区行事に参加をしたり、繋がりがある関わりは出来ていない状況である。今後はグループホームで作った野菜などを地域に届けるなど何らかの関わりをもっていきたい。</p>	<p>地域の運動会やお祭り等に入居者とともに参加して地域との交流に努めている。また今後ホーム菜園で入居者と収穫した野菜を近隣の保育園へお届けしたり、入居者が訪問できる関係性の構築に努めたい旨を伺った。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症の学習会に講師として参加し、認知症予防や、関わり方などの情報を提供している。地域の方々からはとても良い評価を受けている。</p>	/	
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域推進会議は開催しているが、定期的には行っていないので、今後の課題でもある。防災訓練に参加し地域の方々との顔なじみの関係を作っている。</p>	<p>定期的な地域推進会議(運営推進会議)の開催ができていない。開催時にはご家族、区長、民生委員、市担当者等の参加によりホームの年度方針(地域との連携、防災の取り組み、認知症介護教室等)について報告が行われている。</p>	<p>地域推進会議にはホーム運営に関する幅広い立場の方々(入居者、ご家族、区長、民生委員、市担当者、消防、警察、保育園、小、中、高の教職員等)が参加する会議とし、ホームの取り組み内容や具体的な改善課題についての話し合いにより、地域の理解と支援を得る取り組みの場となるよう期待する。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地域で行っている防災訓練に参加し、緊急時の避難場所の確認をしたり、施設と地域の連絡網を作成し訓練も行った。協力関係を築くために努力は行っている。</p>	<p>市の担当職員は地域推進会議に参加し、ホームの年度方針について把握されている。ホームの専門性を活かし、認知症予防教室の開催に向け協働関係を築いて行かれる旨を伺った。</p>	

外部評価結果(あずみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には拘束は行っていないが、夜間常など、職員が少なく対応が困難な場合は玄関に鍵をかけることもある。又、身体拘束の学習会や研修に参加し情報を共有している。	母体福祉会で開催される身体拘束の学習会や研修に参加して、身体拘束によって入居者が受ける身体的、精神的弊害について職員全員で理解をし、拘束のないケアの実践に努められている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加している。又学んだ情報を部会等で報告し共有している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している。又学んだ情報を部会等で報告し共有している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分な説明を行っている。面会時や電話での質問も随時受けており、適切に答えるように努力している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置している。面会時に簡単なアンケート方式で聞き取りを行い、改善点があれば部会で話し合い改善に繋げている。	地域推進会議や家族会(年3回)出席の折に意見や要望を表出できる機会づくりに配慮されている。なおホーム玄関に意見箱を設置すると共に、アンケート方式の聞き取り用紙が用意されている。出された意見や要望について部会で話し合わせケアサービスに反映されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部会の中で収支報告を行い、職員全員で経営意識を持ちながら経費削減に努めている。	年3回(年度初め、中、年度末)管理者による職員全員の面接が行われている。入居者との関わり方等ケアサービスについての意見や業務時間の改善要望等が出され職員の意見が反映されている。	

外部評価結果(あずみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが働きやすい環境を作るように努力している。職員のやりがいを持ってもらうため、利用者担当を作ったり、職員がやりたいことを部会の中で出し合い共有し実践している。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を高めるため、研修会に参加をしたり、部会の中で報告し共有をしている。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にグループホームが3箇所あるため交流や学習を行いながらお互いに向上心を持ち取り組んでいる。法人外の施設とは交流がないため今後の課題。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望がある場合のみだが、「お試し入所」をしてもらい、雰囲気を感じてもらおう事を行っている。家族とも不安がなくなるまで話し合いを持つようにしている。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	納得するまで話し合いを持つようにしている。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を聞きながら行っている。必要性があれば、他職種の方にもアドバイスをもらうなども行っている。		

外部評価結果(あずみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの福祉宣言にも掲げているが、職員は「生活のパートナー」という意識で日々関わりをもっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月簡単ではあるがお便りを出し、取り組みを知ってもらう事をおこなっている。利用者個々にノートを用意し、行事の際の写真やその時の様子を書いている。面会時に家族との会話に役立っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出レクで馴染みのある場所へ出かけるように心がけている。又手紙のやり取りなどの手伝いも行っている。	入居者の希望を受けて昔馴染の場所(きつね島、城山、松本城等)への外出や隣接施設に入所されている知人へ繋げたり、知人からの便りのやり取りの支援に努められている。ご家族より「外出レク」の折には参加したい意向を受けて実現していかれる旨を伺った。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者の関係に気を配り、気のあう利用者同士で食事を囲むなど工夫をしている。日々の利用者同士の会話をとても大事にしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから同法人内に移った利用者とは交流をしたり、職員が様子を見に行ったりしている。家族の方とも話をするようにしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の押し付け介護はせず、本人の希望、意向に添いながらケアを展開している。困難なケースが出た場合には家族も含め前向きに検討している。	センター方式(私の心と身体の全体的な関連シート)を活用して担当職員による一人ひとりの思いや希望、意向等の把握に努められている。なお把握が困難な場合には日頃の行動や表情から汲み取ったり、ご家族より情報を得て検討をされている。	

外部評価結果(あずみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室には使い慣れた家具などを置き安心感を持ってもらえるように努力している。又、センター方式を用いて利用者の生活を知る努力を行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の部会で担当職員から利用者の状態、状況報告を受け、ケアの見直し等を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネと密に連携を取りながら、職場全体でケアプラン作成、実践に取り組んでいる。職員個々の気づきを大事にケアプランに繋げるように努力している。	入居者・ご家族や関係者(訪問看護師や理学療法士等)の気づきや意見、アイデアを取り入れるとともに、担当職員の意見を基に職員全体で話し合い、入居者主体の暮らしを反映した介護計画が作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテ記載はS・O・A・Pを導入し、ケアプラン作成につながるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化を素早く察知してレベルに合わせたケアを提供できるように努めている。又、ここでの生活が難しくなった場合は他施設への異動も視野に入れていく。家族の意向を最大限考慮した対応を取っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で楽しい暮らしが送れるように心がけ実践しているが、地域を巻き込む取り組みは出来ていないため今後の課題。		

外部評価結果(あずみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者全員毎月2回の往診を行っている。必要に応じて医師と家族、職員で面談等も行い、その方に適したケアを選択しながら実践している。</p>	<p>入居者、ご家族の希望により、入居者全員が協力医による月2回の訪問診療を受けている。なお訪問看護師による体調管理も実施されており入居者、ご家族の安心が得られている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回の訪問時に利用者の状態報告を行っている。往診時も一緒に立ち会ってもらい、看護、介護の両視点から一人の利用者をケアできている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際は、情報提供書を作成し情報交換を行っている。入院中も様子を見に行きながら、早期の退院ができるように努めている。病院との関係は良好である。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>病状悪化時や、急変時の対応を家族と話し合い家族の意向に添いながら対応をしている。書面として利用者個々の方針がわかるように工夫をしている。</p>	<p>入居者一人ひとりの身辺状況やご家族の意向を伺いながら入居者やご家族が安心して暮らせるよう、日常の健康管理や急変時に対応できるよう話し合い、方針の統一が図られている。今後看取りに向けた職員教育に取り組みされて行く旨を伺った。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>部会や法人内で行う学習会に積極的に参加し学習をしている。又救急車の呼び方など訓練も定期的に行っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>複合施設全体で避難訓練を実施。夜間、連絡網を使い練習を行っている。地域と施設の連絡網も作り、避難訓練を行っている。今後も継続的に行って行きたい。</p>	<p>年2回複合施設全体での避難訓練を消防署の協力のもと実施されている。地域の連絡網(緊急災害時連絡網)が完成したことにより地域との連携や協力体制が築かれている。ホーム独自の夜間想定避難訓練を実施して行かれる旨を伺った。</p>	<p>入居者の高齢化に伴い身体機能低下や重度化傾向が見られる中で、様々な災害を想定した避難訓練を行い、職員のみでの誘導の限界を周知して近隣住民の協力が得られるような取り組みに期待する。</p>

外部評価結果(あずみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	福祉会全体で接遇の外部講師を招き講習を行った。そこに職員も参加し、部会で報告し全職員で共有した。	入居者一人ひとりの誇りやプライバシーが見極められ、その人にあわせた言葉掛けや対応により心身の安定と信頼関係が築かれている。母体の福祉会で開催した接遇研修に参加して、職員全員で周知し対応に努められている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの押し付け介護ではなく、利用者の声を大事に日々のケアを実践している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の声を大事にし、職員はそこへ寄り添う形を取りながら、日々を送っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	レベル的な問題もあるが、服を選べる方には、選んでもらい、身だしなみを整えている。訪問理容を取り入れ希望に添いながら行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の昔好きだったものを聞きながら、取り入れたり、季節に合わせた食事、地域ならではの食事も取り入れ、利用者同士の会話にも繋げている。	職員は入居者の食べる意欲を引き出すために日頃のケアの中より好物や昔から行われている季節毎の行事食等を聞きながら献立に取り入れている。調理一連作業(食材を刻む、すりつぶす、まぜる等)や食器拭き等が行われ、その中で入居者間や職員との会話を楽しまれている。職員と共に同じテーブルを囲み「食」のできればえについて楽しそうに話し合われている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事量は常に気にしている。個々に合わせた食事時間の提供をしたり工夫はしている。		



外部評価結果(あずみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	火・木・土は入れ歯使用者全員に消毒を行っている。個々の力を見ながら適切に行えている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズム表を作り記入。把握をする努力を行っている。	排泄リズムチェック表により入居者一人ひとりの排泄パターンを把握してさり気なく声掛けをし、排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のお茶時に乳製品を取り入れている。便秘がちな方には下剤を使用するなど工夫はしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者が希望時に入れるようにしている。入浴剤を使うなどリラックスできるような工夫もしている。	入浴時間は午前9時～午後4時の間に入居者の希望時間を配慮した支援が行われている。週2回から状況に応じ毎日入浴支援を受けられている。季節風呂(菖蒲湯、バラ湯、ゆず湯等)や入浴時に肩マッサージを行うなど、気持ちよく入浴ができるようにきめ細かい配慮がされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々が、安心して休めるように居室以外にもソファを用意したり、簡易ベットを使用したり工夫を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々の内服に関して理解をしている。薬が変更になった場合など業務ノートを使い、情報の共有に努めている。本人の状態を見ながら内服の中止など行っている。(下剤等)		

外部評価結果(あずみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭仕事、畑仕事、手芸など個々にあわせた役割を見つけ楽しみとして提供している。又、外出レクや買い物などを行い気分転換を図っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添いながら外出を行っている。個別での外出に力を入れ、買い物と一緒に رفتったりと行っている。ご家族の協力も得られている。	入居者の状態や習慣、希望に配慮しつつ日常的な散歩や定期的な買い物外出、入居者の希望(ゆかりの地など)にそった個別の外出支援が行われ、楽しみや張り合いになるよう努められている。なおご家族の協力を得てドライブ支援も行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	レベル的な事もあり金銭を所持することはしていない。購入したいものがあれば、職員と買い物へ出かけ購入している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添いながら提供している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には利用者の作品を展示したり、写真を飾ったりと会話が出やすい環境になるように工夫をしている。	玄関には金魚や亀の水槽を用意して、金魚の優雅な泳ぎや亀の動きが、入居者の気持ちを温かく包み、安らぎが得られる場所となっている。また廊下に展示されている入居者の行事写真や作品より家庭的な雰囲気伺える。なお中庭には入居者により様々な植物が植えられ季節季節の花が楽しめる工夫がされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも、談話コーナーを設け利用者同士が気軽に話が出来るスペースを作っている。		

外部評価結果(あずみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を置き安心感を提供できるように努めている。	入居者が使い慣れた馴染みの品(テレビ、タンス、家族写真、賞状等)が持ち込まれ、一人ひとりに合った環境づくりにより居心地の良い居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々のレベルに合わせ、手すりなどを設置し、できるだけ自分で出来るように工夫をしている。		